

中米における二つの大統領選挙

2月2日の日曜日、中米の二か国、エルサルバドルとコスタリカで、大統領選挙が行われ、対照的な結果を残しました。エルサルバドルは人口約620万人、有権者数約495万人で、投票率は50%余、コスタリカは人口約480万人、有権者数約306万人で、投票率は61%でした。エルサルバドルは、海外に約300万人、その内250万人が米国に居住しており、実際の投票率に表れない問題があります。コスタリカの投票率61%は、史上最低で、国民の政治への無関心が問題とされています。

エルサルバドルは、任期5年で連続再選禁止、コスタリカは、任期4年で8年後の再選可能という選挙システムを取っています。エルサルバドルでは、50%以上を獲得しないと、コスタリカでは、最高得票者が40%以上を獲得しないと、上位2名による決選投票に持ち込まれます。今回は、両国とも3月9日（エルサルバドル）と、4月6日（コスタリカ）に決選投票が持ち込まれることになりました。

エルサルバドルの現政権は、左翼政党のファラブンド・マルティ民族解放戦線(FMLN)を基盤とするフネス政権で、コスタリカは中道右派の国民解放党の女性のチンチージャ大統領です。



左キハーノ候補、右セレン候補

エルサルバドルでは、開票率83%で有力候補の3人、左翼のFMLNのサンチェス・セレン候補が48.96%、右翼の民族主義共和同盟(ARENA)のノルマン・キハーノ候補が38.96%、中道右派の団結(UNIDAD)の元大統領(2004-2009)アントニオ・サカ候補が11.41%という結果でした。決選投票で、フネス現政権の、国民本位の政策の継続を訴えるFMLNのセレン候補の優位は揺らぎようもないようです。キハーノ候補、サカ候補とも対米従属傾向を隠そうとはしていません。

コスタリカでは、開票率85.36%で、予想を裏切り、中道の市民行動党(PAC)のルイス・ギジェルモ・ソリス候補が30.96%、中道右派の国民解放党(PLN)のジョニー・アラヤ候補が29.58%、左派の拡大戦線(FA)のホセ・マリア・ビジャルタ候補が17.14%を、極右の絶対自由主義運動(ML)のオットー・ゲバラ候補が11.19%を獲得しました。拡大戦線は、ラテンアメリカの左翼の意見・経験交流の場であるサンパウロ・フォーラムのメンバーです。PACは、2002年にPLNの新自由主義政策を批判して同党を離党したオトン・ソリスが設立した党です。



ギジェルモ・ソリス候補

ビジャルタ候補は、決選投票になった場合、PACを支持することを示唆しています。決選

投票は、新自由主義政策をめぐって、また、対米自立を巡って、一・三位連合と二・四位連合との戦いとなりそうです。

コスタリカで同時に行われた国会議員選挙(57 議席)では、与党の PLN が 18 議席 (-6)、PAC が 13 議席(+2)、FA(+8)とキリスト教社会統一党(USC、+3)がそれぞれ 9 議席、ML が 3 議席(-6)、その他 8 議席となり、大統領選挙とともに、左派勢力の躍進が目立ちました。



←ビジャルタ候補

こうした傾向は、エルサルバドルでは、FMLN 政権のもとで、貧困削減、格差減少、社会福祉の改善政策が取られ、それぞれの社会指数が改善

していますが、コスタリカの場合は、PLN 政権のもとで新自由主義政策が継続された結果、これらの社会指数が悪化していることからきています(下記の表参照)。中米でも、新自由主義政策反対、対米自立の傾向は、変わりそうにもありません。

国	エルサルバドル		コスタリカ	
	2000	2012	2000	2012
年度	2000	2012	2000	2012
貧困	47.9	45.3	20.3	17.8
極貧	21.0	13.5	7.8	7.3
所得の GINI 係数	0.531	0.437	0.474	0.504
人間開発指数(HDI)	0.620	0.680(107)	0.705	0.773(62)

出所：CEPAL, Anuario Estadístico de América Latina y el Caribe, 2013.

UNDP, Human Development Report, 2013.

(2014 年 2 月 3 日 新藤通弘)